

卒業論文の要旨

論文題目	日韓比較による学校における環境教育のあり方
氏名	金子 権孝
メジャー	環境学
<p>(要旨)</p> <p>環境問題の深刻化とそれに対する全世界的な関心の高まりに対応して、環境教育への注目度が高まってきている。本論文は、筆者がインターンシップにおいて環境教育に直接関わった経験をスタートラインとしており、また筆者が中学・高校時代を留学先として過ごした韓国での環境教育にも注目して、日韓比較をベースとして環境教育のあり方を論じたものである。</p> <p>まず日本と韓国のそれぞれについて、環境教育の歴史と現状を整理し、それぞれがかかえる問題点や将来に向けた課題について論じた。それらに基づいて、環境教育の新たな可能性を論じ、提言を行った。その主たる内容は、以下の2点に集約される。</p> <p>1点目は、教員に関する事項である。現状では、環境教育を担う教員を養成する制度が日韓とも脆弱であり、大幅な改善を要する状況にある。また筆者は、学校に環境教育を専門とするコーディネータを配置することを提言している。すべての教員が環境教育に関する知識と経験を備えることは不可能であることから、コーディネータがそれをサポートするしくみが有効であると述べている。</p> <p>2点目は、学校における環境教育と社会（地域）における環境教育の連携に関する事項である。韓国では既にある程度実践されているが、日本ではまだ例が少ない。社会（地域）における環境教育は、主としてNPOが担っているが、その活動が学校教育と適切に連動することができれば、環境教育の効果が大幅に増大することが期待される。またそれによって、学校教育における環境教育担当教員の不足も、カバーされることが期待される。</p> <p>最後に将来に向けて、環境問題の今後の変化にも対応しつつ、新たな環境教育の方法を創り出すことを提言している。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>本論文は環境教育のあり方を主題として、日韓両国における歴史と現状の分析をベースとして議論した結果を提言としてまとめたものであり、今後の環境教育の発展に大いに貢献するものと評価できる。韓国留学経験を活かし、韓国語の文献資料も複数参照している点が特筆され、卒業論文として極めて高いレベルにあると判断して、優秀卒業論文として推薦する。</p>	